

数字で見るワイン産業（2015年版）

スペインは、世界でも有数のワイン生産国である。栽培面積では世界 1 位。2014/2015 年度（2014 年 8 月から 2015 年 7 月）のワインとモスト（ぶどう搾汁）の生産量はイタリアとフランスを押さえ、同じく世界 1 位。そして、2015 年 9 月時点で、年間の輸出総量も世界第 1 位であるが、輸出額で世界第 3 位となっている。スペインにおけるワイン産業は、経済的観点からだけでなく、社会の中で果たす役割、環境保護の観点からみても重要なものである。また、海外におけるスペインのイメージを代表するものとして、この産業の果たす役割は大きい。スペインにとってワイン産業は特別な存在なのである。

1. 世界市場の状況

ぶどう栽培面積

国際ぶどう・ワイン機構 - O.I.V (Organización Internacional de la Viña y el Vino) のデータに基づくと、2014 年の世界のぶどう栽培面積は 2013 年とほぼ同じで、7,554,000 ha とされる。EU のワインの生産能力調整促進政策の中止により、EU のぶどう栽培面積の減少に歯止めがかかったことは明らかだ。2011 年から 2012 年にかけて、EU のぶどう栽培面積は 54,000ha 減少したが、2013 年から 2014 年では、19,000ha の減少に留まっている。EU 域外のぶどう作付面積に関しては、2014 年のデータは 82,000ha の増加を示している。中国及び南米（ブラジルを除く）では、ぶどう栽培面積は増え続けている。実際、2014 年に中国はスペインに次ぐ、世界第2位のぶどう栽培面積を持つ国となった。逆に、オーストラリアでは、3 年連続の減少傾向が続いている。2014 年の EU 域外のぶどう栽培面積は、総計 3,525,000ha と推定され、2013 年と比べ、2.4%の増加が認められる。

国別ぶどう栽培面積								
(単位：千 ha)								
出典：O.I.V.のデータを元に、OeMvが作成								
	2008	2009	2010	2011	2012	2013予想	2014予想	構成比率
スペイン	1,165	1,113	1,082	1,032	1,017	1,021	1,021	13.52%
フランス	858	836	818	796	792	793	792	10.48%
イタリア	825	812	795	720	712	705	690	9.13%
ポルトガル	246	244	244	236	233	229	224	2.97%
ルーマニア	207	206	204	191	192	192	192	2.54%
他のEU加盟国	491	479	474	461	483	478	480	6.35%
EU合計	3,792	3,692	3,654	3,468	3,429	3,418	3,399	45.00%
米国	402	403	404	413	412	424	425	5.63%
トルコ	518	515	514	508	497	504	502	6.65%
中国	480	518	539	633	709	760	799	10.58%
アルゼンチン	226	229	217	219	222	224	227	3.01%
チリ	198	199	200	206	206	208	211	2.79%
南アフリカ	132	132	132	133	135	133	132	1.75%
オーストラリア	173	176	171	170	162	157	152	2.01%
非EU合計	3,945	4,009	3,933	3,324	3,386	3,443	3,525	46.66%
全世界合計	7,737	7,702	7,672	7,497	7,498	7,546	7,554	100.00%

世界的な生産状況

国際ぶどう・ワイン機構 – O.I.V は、2015 年の世界のワイン生産量を 2 億 7,570 万 hL (ヘクトリットル) と推計している(モスト《ぶどうの搾汁》及びジュースを除く)。これは、2014 年と比較して 2%の増加の見込みとなる。2015 年、世界第1位のワイン生産者はイタリアで 4,890 万 hL(+10%)、それにフランスが 4,740 万 hL(+1%)、**スペインの 3,670 万 hL(+4%)**が続く。減産傾向にあった国では、ドイツの生産がさらに4%減少して 880 万 hL、ギリシアも 9%マイナスの 270 万 hL となり、逆にポルトガルとルーマニアでは生産が増えた。

EU 域外では、アメリカの生産量が 2,210 万 hL に達し、増産ではあるが、2013 年の生産レベルは達しないだろう。南半球では結果はばらばらである。チリが 1,290 万 hL で 22,6%の伸びを記録する一方で、アルゼンチンはマイナス 12,1%の減産を記録し、生産量は 1,340 万 hL まで減った。南アフリカでは、生産量 1,130 万 hL で、2014 年のレベルを維持。オセアニア地域では、生産量は同じレベルを維持する見通しで、オーストラリア 1,200 万 hL、ニュージーランド 240 万 hL が予測されている。

国別ワイン生産量 (単位:千 hL)

出典: O.I.V のデータをもとに OeMv が作成

	<u>2010</u>	<u>2011</u>	<u>2012</u>	<u>2013</u>	<u>2014</u> 予想	<u>2015</u> 予想	構成 比率
フランス	44.381	50.757	41.548	42.134	46.804	47.373	17.2%
イタリア	48.525	42.772	45.616	54.029	44.229	48.869	17.7%
スペイン	35.353	33.397	31.123	45.308	38.211	36.600	13.3%
その他の EU 加盟国	28.117	30.238	25.417	31.475	31.243	38.258	13.9%
EU 合計	156.376	157.171	141.415	174.158	166.232	171.100	62.1%
米国	20.887	19.140	21.650	23.590	22.020	22.140	8.0%
アルゼンチン	16.250	15.473	11.778	14.984	15.197	13.358	4.8%
チリ	8.844	10.464	12.554	12.870	10.500	12.870	4.7%
オーストラリア	11.420	11.180	12.259	12.310	12.020	12.000	4.4%
非 EU 合計	107.812	110.632	116.796	118.060	104.002	104.565	37.9%
世界合計	264.188	267.803	258.211	292.218	270.234	275.665	100%

EUにおける生産状況

O.I.V.の最新のデータによると、2015年のEU域内でのワイン生産量は1億7,110万hLで、前年度に比べて2.9%の増加が見込まれる。

2015年12月に更新された欧州委員会のデータによれば、2015/2016年度のEU域内で生産されたワインとモストの量は1億7,110万hLで、2014/15年度と比較して2.9%の増加。これは、過去5年度間の平均的な増加量である。2015/16年度、ワイン醸造用に生産された量は1億6,500万hLで、総量のうちの96.4%を占める。このうち、7,140万hLがDOP(原産地呼称保護 (Denominación de Origen Protegida)ワイン(43.3%)、3,550万hLがIGP(地理的表示保護 Indicación Geográfica Protegida)ワイン(21.5%)、540万hLがDOP、IGPのない単独品種ワイン(3.3%)、5,270万hLがその他のワイン(31.9%)の醸造用に用いられている。

ワインの種類別に見ると、DOPワインの生産国1位はフランスで、2,230万hLを生産。次いでイタリアの1,610万hL、**スペインの生産量は1,420万hL**である。IGPワインの生産量では、フランスが1,380万hLに増え、イタリアが1,370万hL、**スペインが350万hL**となっている。DOP、IGPが付かない品種表示ワインでは、スペインがトップで430万hL、それにイタリア(50万hL)とブルガリア(20万hL)が続く。上記に分類されないその他のワインについては、イタリアの生産量が最も多く1,860万hL、スペインが1,450万hLで続き、フランスは1,160万hL。

ヨーロッパにおけるワイン生産量 (2015/16年度)

出典: EUのデータをもとに OeMv が作成 (モストを除く)

国	2015/16 生産量 (単位:千 hL)	全体に占める 割合	2014/15 年比	2010-15年 5シーズン 平均比
イタリア	50,369	29.4%	+13%	+5%
フランス	47,700	27.9%	+1%	+5%
スペイン	41,000	24.0%	-7%	-2%
ドイツ	8,788	5.1%	-5%	+3%
ポルトガル	6,703	3.9%	+8%	+6%
その他のEU国	16,540	9.7%		
EU合計	171,100	100.0%	+2.9%	+2.9%

ワイン消費量

O.I.V.の推計によると、2014年の世界のワインの消費量は約2億4,000万hLで、前年比で240万hL減少する(-0.8%)予測が出ている。2008年に始まった金融経済危機からの回復は、期待のつの中、その兆しをみせない。

国別に見ると、2014年に米国では3,070万hLが消費され、数量ベースで世界最大の消費国である。ここ数年来の消費の伸びに勢いが失われ、2014年には1.7%の微増に留まった。中国の消費量は21世紀初頭にみせた急速な伸びとは対照的に減少傾向が続き、2014年の減少率はマイナス7%。南米の主要国に関しては、ブラジル及びチリでは2013年と比較して特別な変化のない2014年であったが、2013年に増加傾向をみせたアルゼンチンは消費量を減らした。

EU諸国の消費量については、過去数年間と同様に、2013年も2014年も、従来からの消費国での消費が減少し続けた。フランスでは90万hL、イタリアでは140万hLの減少。一方スペインでは長引いた国内消費の落ち込み後、2014年には減少に歯止めがかかり、1,000万hL(2013年と比較して20万hL増加)の増加を記録するだろう。

世界のワイン消費量(単位:千hL)

出典: O.I.V. のデータをもとに OeMv が作成

国名	2012	2013 予想	2014 予想	2014/13 年 比	構成比率
フランス	30,269	28,700	27,850	-2.96%	11.60%
イタリア	22,633	21,795	20,395	-6.42%	8.50%
ドイツ	20,000	20,400	20,200	-0.98%	8.42%
イギリス	12,801	12,700	12,600	-0.79%	5.25%
スペイン	9,300	9,800	10,000	2.04%	4.17%
その他の EU-27*	27,130	25,791	28,955	12.27%	12.06%
EU 合計	122,133	119,186	120,000	0.68%	50.00%
米国	29,000	30,200	30,700	1.66%	12.79%
中国	17,477	17,000	15,800	-7.06%	6.58%
アルゼンチン	10,051	10,400	9,900	-4.81%	4.13%
オーストラリア	5,375	5,400	5,400	0.00%	2.25%
その他の非 EU 国	60,230	56,186	58,200	3.58%	
非 EU 合計	122,133	119,186	120,000	0.68%	50.00%
全世界合計	243,000	242,000	240,000	-0.80%	100.00%

* EU-27: ドイツ、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、キプロス、デンマーク、スロバキア、スロベニア、スペイン、エストニア、フィンランド、フランス、ギリシャ、ハンガリー、アイルランド、イタリア、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルグ、マルタ、オランダ、ポーランド、ポルトガル、イギリス、チェコ共和国、ルーマニア、スウェーデン

2. スペインにおけるワイン産業

スペインにおけるワイン産業は重要な地位を占める。それは単に、この産業の生み出す経済価値や、就業者数の多さに着目してのことではなく、環境保全の意味からも、この産業の果たす役割は大きい。

ぶどう栽培面積

O.I.V.のデータによると、2014年のスペインのぶどう栽培面積は102万1,000haで(97.4%がワイン醸造用、2%が生食用、0.3%が干しぶどう用、0.3%が苗床用)となっており、EU及び世界で不動の最大面積を有している。しかしながら、スペイン農業・食糧・環境省(MAGRAMA)の最新の公式データによると、2015年の栽培面積は954,659haだとされている。いずれにせよ、EU域内の全ぶどう栽培面積のほぼ30%を占め(次いでフランスが23%、イタリアが22%)、世界の13.4%を占めている。スペインのワイン製造の歴史は古く、ローマ時代にまでさかのぼるが、大規模な輸出が一般的になったのは近年のことである。

スペインにおけるワイン生産量

スペインにおけるワインとモストの生産量は、過去7年度に渡り、安定して約4,000万hLの水準を保っていたが、スペイン農業保障基金-FEGA(Fondo Española de Garantía Agraria)の発表によると、2013/2014年度は、生産量が5,200万hLを超えて、これまでで最高となった。これは前年度の特に生産量が少なかった2012/2013年度の3,420万hLと比較すると、53.7%(+1,840万hL)の大幅な増加であり、記録的な伸びといえる。同じくFEGAが、各自治州の公表した数字をもとに発表したデータによれば、2014/15年度は、ワインとモストの生産量は4,340万hL(3,820万hLがワイン、520万hLがモスト)であった。特に生産量の多かった2013/2014年度と比較するならば、-17.4%の減少である。

地域別では、カスティーリャ・ラ・マンチャが最大の生産量を誇り、その生産量は2,460万hL。これは2014/15年度のワインとモストの総生産量の56.6%に相当する。

一方、2015年11月現在、スペイン農業・食糧・環境省(MAGRAMA)が発表した2015/16年度の最新生産予測では、ワインとモストで約4,050万hLという数字見通しが出ている。ただし、同省自身がこの数字は暫定的なものであり、今後、各自治州から公表される数値に従い更新されてゆく、という注釈付きの数値である。

2015年11月現在、最新の推定値では、ワインとモストの生産量は4,290万hLの見込みという予測もあり、これに基づけば4,440万hLであった昨年度と比較して、マイナス8.9%の減産が予測されている。地域としては、カスティーリャ・ラ・マンチャが2,220万hLで、総生産の54.8%を占める生産量で、他をよせつけない最大生産地となっている。

スペインにおけるぶどう栽培

地理的位置関係、気候の違いや土壌の多様性が、イベリア半島や周辺の島々を、非常にバリエーション豊かなワインの産地とならしめている。スペインには 17 の自治州があるが、そのすべての地域でぶどう栽培が行われている。しかし、全体の約半分を占めるのがカスティーリャ=ラ=マンチャであり(473,268 ha、ぶどう作付面積の 49.6 %)、世界有数のぶどう栽培面積を誇っている。次いでエストレマドゥーラ(80,391ha、8.4%)、カスティーリャ・イ・レオン(63,359ha)、バレンシア(62,676 ha)、カタルーニャ、ラ・リオハ、アラゴン、ガリシア、ムルシア、アンダルシアが続く。

しかしながら、スペインにおけるぶどう栽培面積は減少傾向にある。農業・食糧・環境省の作物栽培面積・収量調査(ESYRCE)によると、2015 年のスペインにおけるぶどう栽培総面積の合計は 954,659ha で、前年の 950,541ha に比べわずかながらの増加が見られたが、増加面積は 4,118ha でプラス 0.4%に留まっている。最大の増加率をみせたのがカスティーリャ=ラ=マンチャ(+2%)、減少割合が大きかったのは、エストレマドゥーラ(-3.2%)、バレンシア(-3.7%)、アラゴン (-1.3%)。

スペインには、原産地呼称保護(DOP)認定ワインを生産している地域が 90 あり、うち 69 地域に原産地呼称(Denominación de Origen)、2 地域に特選原産地呼称(Denominación de Origen Calificada)、7 地域に地域名称付き高級ワイン(Vino de Calidad con Indicación Geográfica)、14 地域に単一ぶどう畑限定高級ワイン(Vino de Pago)がそれぞれ認められている。各地域で生産されるワインについては、ヨーロッパの基準に従い、生産量、醸造技術、品質に関して厳しい管理が行われている。また、41 地域に地理的表示保護ワイン(Indicación Geográfica Protegida-IGP)が認められている。

スペインで最初に原産地呼称が与えられたのは 1932 年である。その年にはリオハ(Rioja)やヘレス(Jerez-Xères-Sherry、Manzanilla de Sanlúcar de Barrameda)、その他16の地域が認定を受けた。

発表された最新のデータによると、51.1%が赤およびロゼワイン用で、48.9%が白ワイン用に生産されている。スペインで栽培される一般的なぶどう品種は、生産量の多い順に、アイレン(23.5%)、テンプラニーリョ(20.9%)、ポバル(7.5%)、ガルナチャ・ティンタ、モナストレル、パルディナ、マカベオ、パロミノである。この中で、赤ワイン用はテンプラニーリョ、ポバル、ガルナチャ・ティンタ、モナストレルで、残りは白ワイン用である。

スペイン国内におけるワインの消費量は減少傾向にあり、気がかりな状態が続いている。1人当たりの年間ワイン消費量は 20 リットルに満たず、これはヨーロッパ内でも下位の水準といえる。

3. 産業の構造

現在、スペインのワイン産業は、近代化とリノベーションの重要な時期にある。2000 年以來、再転換がなされてきたぶどう栽培地の面積は 130,000ha を超え、このための投資金額は 8 億€に及んでいる。スペインでは 4,000 以上のワイナリーがスティルワイン、発泡性ワイン、酒精強化ワインやリキュールワインの生産に従事している。その大部分が国内資本による家族経営であるが、また、かなりの数のワイナリーが農業協同組合のような組織体を作っている。

この業界の主要ワイナリーの中で、売上が 1 億€を越えるものは、Freixenet、J. García Carrión、Codorníu、Arco Wine Invest Group、Grupo Domecq Bodegas、Grupo Miguel Torres S.A.、Félix Solís Avantis、Grupo Faustino の各社である。

産業構造としては、小規模ワイナリー及び協同組合と大企業が共存している。大企業は、製品の多様化を図るために様々な地方にワイナリーを有している。生産の全過程で品質管理を徹底するため、自社用のぶどう畑を購入したり、作付面積の拡大を行うワイナリーもあるが、ワイナリーへの供給が、他のぶどう農家、あるいは協同組合からワインの買付けという形で行われている場合もある。また、より幅広い高品質ワインを生産するために、ワイナリーの新設、設備施設の改良、熟成方法の技術開発のために長年多大な投資が行われた。しかし、昨今の経済危機の影響を受け、ここ数年は投資レベルには低下傾向がみうけられたが、その状況下でも、多くのワイナリーが、新しいぶどうの品種やその土地固有の品種を使って、試行錯誤を繰り返して、技術革新を行いながら、新しい消費者の好みにあったワインの生産を行っていることは注目すべき点である。

高品質ワインのワイナリー数をもっとも多いのは特選原産地呼称 DOCa リオハで(826)、続いて DO カバ(419)、DO リベラ・デル・ドゥエロ(286)、DO ラ・マンチャ(256)、DO カタルーニャ(203)、DO ペネデス(187)、DO リアス・バイシャス(181)である。

ワイナリーの刷新に際し、世界的に著名な建築家に依頼して新ワイナリーの建設を行う動きも盛んで、例えばリオハのドメック (Domecq)、ボデガス・イシオス (Bodegas Ysios) はサンティアゴ・カラトラバ氏設計による。また、CVNE のワイナリーはフィリップ・マジエール氏設計、マルケス・デ・リスカル (Marqués de Riscal) はフランク・0・ゲイリー氏設計による。ザハ・ハディッド氏設計による R・ロペス・エレディア (R. López Heredia) の店舗や、ナバーラのボデガス・チビテ (Bodegas Chivite) のためにラファエル・モネオ氏が設計したセニョリオ・デ・アリンサノ (Señorío de Arínzano) が注目を集めている。

ワイン業界は非常に活発な動きをみせている。市場集中度は比較的高く、上位 5 社で市場の約 28%を占めている。外国資本の参入については、上位操業社のうちでみると、生産レベルではそれほど大きくないが、海外での販売力を高めるために、他国の同業他社との契約締

結は広がりつつあり、同様に、スペインのワイン産業が取り組む、激戦の国際化のプロセスに共同して取り組むため、販売企業同士が提携するケースも増えている。

4. 輸出

世界の輸出状況

ワイン業界において貿易取引はますます重要度を増す。2001年から2005年の5年間で、年間平均7,220万hLであった取引量が、2014年には1億150万hLにまで増加した。数カ国の税関データを集計したGTAの統計をもとにして世界の貿易取引額について見ると、2014年の世界のワイン及びモストの貿易取引額は258億4,840万€に達している。O.I.V.は、すべての国の輸出の総量を世界市場として定義しているが、2014年は2013年に比較して、金額ベースでマイナス0.4%の落ち込みをみせた。しかしながら、量的には同期比較で2.1%増加し、1億150万hLであった。

同じくGTAの2015年9月までの1年間の最新データによると、スペインは数量ベースで、ワインとモストの世界第一位の供給国で、その量は2,440万hL、金額ベースでは世界第三位で、26億2,300万€を記録している。海外市場でのスペインワインの平均価格は、1リットルあたり1.08€で、7.4%の減少であった。これは、価格の安いバルクワインの輸出が増えたことによるものであるが、このスペインワインの価格は、世界の他の主要供給国ワインの平均価格である1リットルあたり2.58€を大きく下回っているといえる。

2015年9月までの年間販売量では、第二位のイタリアが2,000万hLでスペインに次ぐ。しかしながら、金額ベースでは、フランスが圧倒的な一位を誇り、81億4,630万€の売上高を記録し、これに次ぐイタリアの、売上高53億1,200万€を大きく引き離している。一方、販売量においてフランスは1,420万hLで、イタリアやスペインのそれと比べるとだいぶ下回る。この差はフランスワインの平均販売価格が遥かに高いことによる。同時期の1年間で、1リットルあたり5.74€で、世界12の主要供給国中、もっとも高い価格であった。さらに、この平均価格における差を、フランスの最大の競争相手であるイタリア(1リットルあたり2.66€)及びスペイン(1リットルあたり1.08€)と比べると、その差は明瞭である。

2015年9月までの1年間で、世界全体のワインとモストの輸出において、イタリア、スペイン、フランスの輸出量を合計すると、数量ベースで56.6%、金額ベースで57.7%を占める。前年同期と比較した場合の推移はどうだろうか？スペインは、前述のとおり、数量ベースでの伸びでトップを走り、2015年9月までの1年間で、数量ベースでの販売量で世界のトップの座を維持している。これは、バルクワイン、ボトル詰ワイン、モストの販売が特に大きく増加したことによるが、平均販売価格は大きく下がっている。反対に、イタリアは、数量ベースでの輸出量を減少させたが、発泡性ワインの販売を大きく伸ばし、金額ベースでは2億2,050万€増加させた。フランスも同時期、シャンパンの販売額を伸ばし、4億6,270万€増加させた。

ヨーロッパの三大生産国に続いて、チリとオーストラリアは、それぞれ、金額ベースでも数量ベースでも、第4位と第5位を占めている。第6位は、金額ベースで米国、数量ベースでは南アフリカとなる。これは両国ワインの価格差による。チリワインの輸出は、2015年9月までの一年間で、平均価格が上昇し、数量ベースで5%、金額ベースで15.1%増加した。オーストラリアの場合、1,040万リットルを売上げ、売上金額を1億5,740万€増やし、平均価格も約11%上げた。米国は金額、数量ともにワインの販売を伸ばし、平均価格も上昇させている。売上高10億€以下の国では、2015年9月までの一年間に、ドイツは金額ベース(-2.4%)、数量ベース(-6%)ともに売上を減らし、平均価格は3.9%上昇。ニュージーランドは、平均販売価格の高いグループ中、フランスに次ぐ高い販売価格をつけている国であるが、2015年9月までの1年間で、若干ながらも販売を増加させている。

最後になるが、アルゼンチンは売上高で成長(+15.9%)を記録したが、数量ベースでは減少(-3.4%)、一方、南アフリカは、金額ベース、数量ベース共に伸びをみせた。

スペインのワイン輸出状況－2015年の年間状況

国税庁(税関)の統計をもとにすると、2015年(1月から12月)のスペインワインの輸出は、数量ベース7.5%の成長、金額ベースで4.4%の増加となり、それぞれ、23億9,630万リットル、26億3,790万€であった。2014年と比べて、1億6,820万リットル増のスペインワインが輸出され、売上高で2014年より1億1,200万€の増加となった。1リットル当りの平均価格は1.10€。

製品種類別では、ボトル詰原産地呼称保護(DOP)ワインが+6.8%、発泡性ワインが+6.1%、地域名称付ワインが+15.6%で、価格における成長の牽引役をつとめた一方、バルクワインはほぼ現状維持で、成長率はわずかに0.2%。しかしながら数量ベースでは、無表示のバルクワインが輸出増加の中心的役割を果たし、それを追って、品種表示付バルクワイン、ボトル詰地理的表示保護ワインがともに並ぶ。

2015年、ボトル詰めのスティールワインでは、スペインは輸出を金額ベースで**5.7%**、数量ベースで**6.7%**伸ばし、16億1,150万€(8,660万€増)、7億9,510万リットル(5,000万リットル増)とした。平均販売価格は1%ダウンし、2014年の1リットル当たり2.05€に対し、2.03€となった。これは、昨年輸出されたワイン全体の、金額ベースで61.1%、数量ベースで33.2%にあたる。細目分類では、**原産地呼称保護(DOP)ワイン**が、スペインの輸出の価格の伸びを支え6.8%の伸びで11億9,700万€の売上を計上し、国内レベルの増加額1億1,200万€よりも7,670万€多い。数量レベルでは増加の率は控えめで、+2.4%で、3億5,850万リットル(+840万リットル)。平均価格は2014年のリットル当たり3.20€に対し、4.3%上昇し、リットル当たり3.34€となった。原産地呼称保護(DOP)ワインにとって、ドイツ、イギリスが、数量的に断然トップの主要市場であることに変わりがない。その二カ国に米国が続くが、金額ベースでは米国市場はイギリスに次いで第二位の市場であり、調査した市場中、最も高い平均販売価格での取引がなされている。**IGP(地理的表示保護)ワイン**とビノ・デ・ラ・ティエラ(Vino de la Tierra)の成長は著しく、数量ベースで28.6%、金額ベースで15.6%の伸びを記録し、それぞれ、1億6,750万リットル(+3,720万リットル)、1億5,990万€(+2,150万€)に達したが、リットル当りの価格は10.1%の大きな値下がりとなり、リットルあたり96セントにまで下落した。一方、**DOPもIPGも品種表示もないワイン**は数量(-1.1%、2億1,860万リットル)、金額(-4.8%、1億8,960万€)ともにわずかの減少で終わり、平均販売価格は-3.7%の値下がり、リットルあたり87セントとなった。最後に、**品種表示のあるワイン**は数量ベースで15.3%の伸びをみせたが、金額ベースで-3.2%下がった。

その他の種類のワインでは、2015年の**発泡性ワイン**の輸出は数量ベースでは持続基調(+0.1%)で、金額ベースでは6.1%増加し、その平均販売価格も同様に6.1%の増加であった。輸出は1億6,880万リットル、4億3,550万€となり、リットル当りの平均販売価格は2.58€。微発泡ワインの輸出は減少、酒精強化ワインを含むリキュールワイン類は金額ベースで伸びたが(+1.5)、数量ベースでは減少した(-2.4%)。

輸出先市場としては、同様に 2015 年の税関の統計をもとにすると、数量ベースでのスペインワインの主要四大市場の合計は昨年輸出の 56.2%に達し、その四大市場ともがバルクワインの重要顧客国である。フランスはトップシェアの市場であり、8.6%の伸びで 6 億 5100 万リットルが輸出された。それに続くドイツは、4 億 1,910 万リットルで、数量の差こそ大きいながら 9.8%の成長をみせた。イタリアは三位をキープしたが、2 億 7,210 万リットルで-14.6%の減少となり、ポルトガルは 2 億 980 万リットルで-14%の下落。イギリスはスペインワインの購買を 1.6%増やし、1 億 7,680 万リットルで第五位の市場として続く。このランキングを金額ベースでみると、ドイツがスペインワインの主要市場となり、2015 年には 4 億 340 万€を計上して +4.1%の成長をみせた。続いてイギリスがランク入りし、3 億 5,610 万€で 1%の伸び。フランスは、数量ベースで文句なしの第一位の市場であるが、金額ベースでは第三位の 2 億 9,800 万€で、シェアを 3.6%増やしている。その後米国が、2 億 9,600 万€で続き、その成長率は 10.9%と非常によい。米国は調査を行った主要市場のうち、平均販売価格が最も高い市場であり、リットル当り 3.66€(+10.9%)で、スイスやメキシコと同様に、リットル当りの価格が 3€を超える。米国は数量ベースにおいては、その比重は軽く、ランキングでは第八位、8,060 万リットル(+0.1%)の輸入国で、中国は 8,130 万リットルで (+34.1%)その上をゆく。数量ベースでの主要な市場では、平均販売価格はさらに安くなる傾向をみせ、イタリアが最も廉価でリットル当り 42 セント(+3.3%)、続いてロシアがリットル当り 44 セント(-9%)、そしてポルトガル(-0.1%)という並びになる。

その他の市場では、中国でのスペインワインの伸びは、非常に好調である(数量ベースで +34.1%、金額ベースで +30.3%)。オランダ(同 +17.5%、+11.3%)、カナダ(同 +10.9%、+9.5%)、メキシコ(同 10.2%、+12%)。ただし、メキシコを除き、平均販売価格は低め。アイルランド向け、またロシア向けの輸出も増えている。マイナス成長の部分では、ベルギー向けのスペインワインの輸出は金額ベースで-1.5%、数量ベースで-1.3%の減少。リトアニア市場の占める割合は僅少であるとはいえ、金額・数量共に-20%以上の減少。ノルウェーでも、マイナス成長。スウェーデンはワインの購入量を増やしたが、その増加分はスペインには回らず、逆にデンマークは購入金額を減少させる中、スペインワインの購入量を増やした。

総括として、2015 年、スペインワインの輸出は、数量・金額共に最高記録を更新、23 億 9,630 万リットル、26 億 3,790 万€の輸出となった。絶対量としては、輸出は 2014 年と比較して 1 億 6,820 万リットルの増加、売上高は 1 億 1,200 万€の増加。平均販売価格は-2.9%の値下がり、リットル当り 1.10€まで値を下げた。

直近の過去 2 年の生産量がほぼ平均的であり、過剰に陥ることがなかったおかげで、スペインワインは、それほどの圧力を感じることなく、海外市場への販売を好調に発展させ、数量ベースでの強い伸びを維持した。ボトル詰ワインは、原産地呼称のスティルワイン、発泡性ワイン(カバ)、地理的表示保護付ボトル詰ワインの輸出が好調に伸び、酒精強化ワインを含むリキュール類の販売価格も伸びをみせ、そのブランド力を発揮した。

輸出先としては、米国、カナダ、メキシコ向けの販売価格が順調な伸びをみせていることを特筆したい。この三つの市場では付加価値の高いワインへスポットが当たっている。バルクワインにとってイタリアは、他を大きく引き離しての第一位の輸出国ではあるが、数量において減少しつつあり、オランダ、フランス、ドイツは大切な市場である。中国市場においても見事な実績をあげており、特に廉価ワインは好調である。

種類別スペインのワイン輸出

AEAT のデータをもとに OeMv が作成

	<u>1995</u>	<u>2000</u>	<u>2005</u>	<u>2011</u>	<u>2012</u>	<u>2013</u>	<u>2014</u>	<u>2015</u>	2015/14 年比
単位 : 100 万€									
DOP ボトルワイン	261.6	586.8	735.7	923.3	1,007.7	1,082.8	1,120.3	1,197.0	6.8%
DOP バルクワイン	55.0	47.3	39.2	43.6	45.4	49.1	31.9	27.2	-14.7%
DOP 無し ボトルワイン	43.5	125.6	170.8	370.8	423.5	424.9	404.5	414.5	2.5%
DOP 無し バルクワイン	69.7	144.4	217.0	387.0	424.3	498.5	470.7	476.4	1.2%
発泡性ワイン	120.5	228.3	289.7	384.9	419.4	458.6	410.3	435.5	6.1%
リキュールワイン	176.4	91.8	83.3	58.7	59.0	59.3	64.7	65.7	1.5%
微発泡性ワイン	5.6	2.4	5.0	10.1	18.2	23.4	23.5	21.7	-8.1%
合計	732.4	1,226.6	1,540.6	2,178.3	2,397.6	2,596.7	2,526.0	2,637.9	4.4%

単位 : 100 万リットル

DOP ボトルワイン	132.8	202.8	257.0	312.5	338.6	346.3	350.1	358.5	2.4%
DOP バルクワイン	105.8	66.4	74.7	68.4	63.4	53.4	39.1	24.8	-36.5%
DOP 無し ボトルワイン	69.5	139.6	219.5	429.4	463.4	356.7	394.9	436.5	10.5%
DOP 無し バルクワイン	175.2	330.8	696.2	1,172.0	943.1	844.7	1,235.3	1,371.7	11.0%
発泡性ワイン	48.1	71.6	108.7	155.1	158.2	160.6	168.7	168.8	0.1%
リキュールワイン	90.8	39.3	30.2	25.4	23.2	18.7	20.8	20.3	-2.4%
微発泡性ワイン	13.0	6.4	2.1	11.4	17.7	20.1	19.3	15.7	-18.4%
合計	635.2	856.9	1,388.5	2,174.2	2,007.6	1,800.6	2,228.2	2,396.3	7.5%

単位 : €/1 リットルあたり

DOP ボトルワイン	1.97	2.89	2.86	2.96	2.98	3.13	3.20	3.34	1.3%
DOP バルクワイン	0.52	0.71	0.52	0.64	0.72	0.92	0.82	1.10	34.4%
DOP 無しボトルワイン	0.63	0.90	0.78	0.86	0.91	1.19	1.02	0.95	-7.3%
DOP 無し バルクワイン	0.40	0.44	0.31	0.33	0.45	0.59	0.38	0.35	-8.8%
発泡性ワイン	2.50	3.19	2.66	2.48	2.65	2.86	2.43	2.58	6.1%
リキュールワイン	1.94	2.34	2.75	2.31	2.54	3.16	3.11	3.23	4.0%
微発泡性ワイン	0.43	0.38	2.32	0.88	1.03	1.17	1.22	1.38	12.7%
合計	1.15	1.43	1.11	1.00	1.19	1.44	1.13	1.10	-2.9%

(注):「リキュールワイン」の中に酒精強化ワイン(シェリー等)が含まれています。